

DX 戦略

2024年6月、新たに経営戦略部門内にデジタル開発本部を設置しました。IT インフラ、データ利活用、業務支援を担当する部署を集めた新体制で、イノベーションの加速・推進とDXによる新たな価値創造を実現し、事業基盤の強化を図っていきます。

目指すゴール

付加価値・労働生産性向上、競争力向上、
経営スピード向上

デジタル開発本部では、付加価値・労働生産性向上、競争力向上、および経営スピード向上をゴールと定め、経営ビジョンに基づくグループ全体最適視点での業務の自動化・効率化の促進と顧客視点での価値創造を目指します。

① デジタルプラットフォーム構築

独自の統合検索ツールである Sanyo Data Hub (SDH) ※の全社活用を進めてきました。また全従業員向けに生成AIの利用環境を整備し、SDHとの融合によるナレッジ探索や業務効率化を進めています。今後は全社共通データ活用基盤としての拡大と継続的なデジタル人材育成によりDXの加速を目指します。

※ Sanyo Data Hubとは、社内に点在するデータを統合し、それらを検索・閲覧しさまざまな業務へ活用できるツール

② 研究開発スピード・成功率アップ

製品・技術情報の一元化、MI (マテリアルズ・インフォマティクス) の推進に加え、研究運営データのさまざまな切り口での可視化と分析によって、良質な研究テーマの設定と回転率・完成率の向上、スピードアップに活かす仕組みの構築を進めています。

③ 営業マーケティング機能の強化

営業活動の一元化、業績の可視化と分析によって、ビジネス維持や拡販、研究開発に活かす仕組みの構築を進めています。今後は蓄積した顧客情報や製品・用途情報、社外情報を活用し、提案型営業へのシフトと最適なプライシングを実現し、既存ビジネスの強化を図ります。

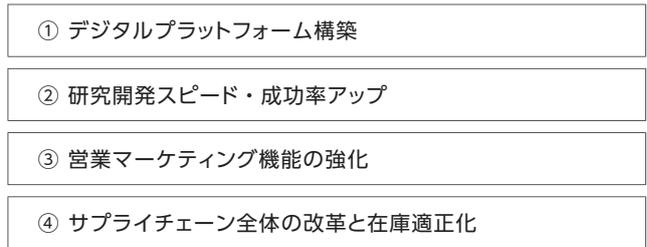
④ サプライチェーン全体の改革と在庫適正化

基幹業務システム (SAPシステム) の導入とPSI (生産・販売計画・在庫) の可視化を通じた業務の見直しにより、23年度には約20億円のキャッシュフロー改善の実績を残すことができました。今後もサプライチェーン全体のデータの利活用と業務改革により、収益・キャッシュフローの改善を目指します。

GOAL



変革領域



VOICE



SDHの運用・更新や勉強会の運営などの業務を通じて、当社のDX推進には、データ基盤整備と人材育成の両輪が不可欠だと感じています。私は入社後すぐに研究部に配属されましたが、有志での勉強会を含め自主的にプログラミングやMIを学んだ経験があります。かつては自分が教わる側だったからこそ不慣れな皆さんの疑問や悩みを想像でき、現在の業務に役立っています。ある時、従業員から「SDHは便利すぎて、ない頃には戻れない」と言われ、嬉しさがこみ上げてきました。進化し続けるDXの世界にアンテナを張り巡らせ、スピード感を持って日々取り組んでいきたいと思っています。

松田 佑樹 デジタル開発本部 業務革新部 DX推進グループ